

決算を認定

決算内容をより深く専門的に議論するために各常任委員会で審議を行いました。

総務民生常任委員会報告

委員長 福中 満

9月24日、25日本委員会に付託されました「平成26年度能勢町一般会計歳入歳出決算認定について」のうち、総務部・出納室・議会事務局・健康福祉部・学校再編室の決算内容を審議した結果、賛成多数で認定すべきものと決定しました。主な質疑応答は次のとおりです。

問 路線バス維持費補助金が毎年増加しているが、これを減らしていく対策は考えているか。

答 町の負担を少なくするよう、バス会社とも協議しているが、なかなか厳しい状況にある。過疎地有償、福祉有償も含めて交通体系全体を考えていかねばならない。

問 共創によるまちづくり討議会やタウンミーティング等で出された意見について、それを行政としてどう受け止め、活かそうとしているのか。

答 住民の声は大事だ。タウンミーティングも続けるべきだ。まず住民の声に耳を傾けること。そして行動に移すことが大事。

問 放課後児童クラブについて、新学校では1カ所の設置予定であるが、特に東地域の保護者にとって利用しづらいという課題があるのではないか。

答 東地域では3世代同居も多く、状況が違うということもある。今後は保護者からの意見を聞き、運営について改善すべきはしていきたい。

問 新学校4月開校に向けて現在の進捗よく状況・事業の達成状況はどうか。

答 校舎等の建築や通学対策は、ほぼ予定どおり進んでいる。特色ある教育の具体的内容については若干遅れている。現在大きく遅れているのは、校歌の部分である。

問 町の財政について、数年先に赤字団体になるという厳しい財政状況にあるが、今後の対策は何か。

答 財政調整基金の取崩しをできるだけ抑えていくこと。また平成30年には公債費のピークを迎える。これをどう乗り越えていくかが大きな課題だ。積み上げ方式による予算編成、行財政改革プログラム、地方創生と町の活性化、公共施設のあり方等を計画的に実施していきたい。

※財政調整基金：計画的な財政運営を行うための貯金
※公債費：町の借入金の返済金

問 付加価値創造事業について、銀寄委員会が立ち上がり6部会で活動が展開され、今年度農水省の予算もついたが、行政としてもっと積極的に支援すべきではないか。

答 今回は農水省の事業として銀寄委員会の自由な考え方の中で、各部会で活動してもらっている。行事の手続き関係等、連携をしている。

問 少子高齢化に対してどういう施策を考えているか。

答 財政的な問題もあるが、子育てしやすい環境づくりと同時に教育の魅力化を進めたい。また観光・就労・交通対策・市街化調整区域の線引き等の課題に取り組み、少しでも住みやすくなる状況をつくり、人口減少の歯止めをしたい。

問 学校備品については既存の物でも使える物は使うということだったが、新しい校舎の中で古い備品というのはどうか。

答 基本的に子どもたちが日常的に使う教室は極力新しい備品を揃え、それ以外は既存の物を極力使うという大きなすみ分けで精査している。

続いて、国民健康保険特別会計、後期高齢者医療特別会計、介護保険特別会計、国民健康保険診療所特別会計について審議した結果、賛成多数で認定すべきものと決定しました。